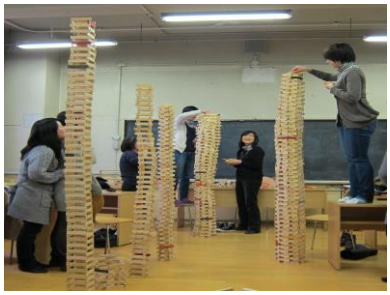

お茶の水女子大学

ECCELL 社会人プログラム

変革期の乳幼児教育・保育を考える

平成 25 年度　後学期

〔開講科目・開講曜日〕

乳幼児教育･保育政策論Ⅱ
（火曜日 10/1～1/28 全 15 回） 2 単位
担当：逆井直紀

子どもと家族
（水曜日 10/2～1/22 全 15 回） 2 単位
担当：加藤邦子

現代保育課題研究Ⅵ
（木曜日 10/3～1/30 全 8 回） 1 単位
担当：浜口順子、榊原洋一 他

比較保育実践研究Ⅲ
（秋期集中 10/26 13:20-18:10, 10/27 13:20-17:15, 10/28 18:20-21:30） 1 単位
担当：翁麗芳

子ども家庭支援相談Ⅱ
（冬期集中 2/1 9:00-16:30, 2/2 9:00-15:45） 1 単位
担当：安治陽子

- 受講生は、お茶の水女子大学科目等履修生として登録され、どの科目も授業回数の 3 分の 2 以上出席する他、一定の条件を満たした場合には、単位が認定されます。
- **男性も受講可能**です。
- 開講時間：18:20～19:50
  （2 単位：15 コマ、1 単位：7.5 コマ）
- 納付金：
  検定料　9,800 円
  入学料　28,200 円（継続の場合、3 年間有効）
  授業料　14,400 円（1 単位につき）

※本学卒業生・修了生は、入学料が無料となります。

詳しくは、お茶の水女子大学 ECCELL ホームページをご覧ください。
⇒ http://www.cf.ocha.ac.jp/nyuyoji/

応募期間　平成２５年７月２２日（月）～　７月２６日（金）（※消印有効）

応募方法　出願要項・入学願書をお茶の水女子大学ホームページからダウンロードしてください（大学教務窓口に直接請求することもできます）。
出願に必要な書類を整えた後、下記送付先までご郵送ください。
⇒　お茶の水女子大学ホームページ： http://www.ocha.ac.jp/

〔願書送付先〕
〒112-8610　東京都文京区大塚２－１－１　お茶の水女子大学 教務チーム　（電話：03-5978-2722）

〔問い合わせ先〕 お茶の水女子大学 ECCELL 社会人プログラム
電話：03-5978-5949　E-mail: nyuyoji-info@cc.ocha.ac.jp

特別経費「乳幼児教育を基軸とした生涯学習モデルの構築」（ECCELL:エクセル）

平成25年度 後学期 開講科目

■乳幼児教育・保育政策論Ⅱ（火曜日）

逆井　直紀（保育研究所　常務理事）

2012年8月、国会で子ども・子育て関連法が成立し、戦後築かれた幼児教育や保育の制度が、大きく切り替えられようとしています。また地域では、子ども数の減少を受けて、幼稚園を中心に保育施設の統廃合がすすんでいますが、大都市部では保育所の待機児童問題が深刻化しています。今まさに、日本の幼児教育や保育は転換期にあり、ここ数年で劇的な変化を遂げることになると予測されます。実際に幼稚園・保育所等において日々行われている保育は、政策や制度の影響を大きく受けており、その制度・政策のありようを考えることは、保育実践を主体的に行う上で不可欠な作業といえます。後期授業では、貧困などの子どもをめぐる社会状況や、施設の統廃合問題や保育所の待機児童問題など乳幼児教育・保育に関わる種々の社会的、政策的問題を採り上げ、今後の乳幼児教育・保育のあり方をともに考えあうような内容を構想しています。

■子どもと家族（水曜日）

加藤　邦子（宇都宮共和大学　子ども生活学部　教授）

少子高齢化社会における子育て支援の具体例を挙げながら、乳幼児期の子どもと家族に関する理解を深めます。親子から仲間への移行が早まっていることを踏まえ、家族および社会的育児の協働によって子どもの発達支援につながることを理解できるようにします。また、保育の可能性と限界を踏まえて他の資源と連携できるように、政策、地域、生涯発達の視点から乳幼児期の支援のあり方を探究します。各自の関心に応じて課題を設定し、自らの視点を取り入れてまとめ、授業の中で発表します。

■現代保育課題研究Ⅵ（木曜日）

浜口　順子（お茶の水女子大学大学院　教授）ほか

本授業では、受講生自身の関心をもとに、乳幼児の保育や教育に関する問題や、保育現場などで直面するさまざまな課題について、各自研究テーマを設定し、ゼミ形式で話し合いながら研究レポートの作成をめざします。たとえば、子どもの発達や育ちと保育の関係、実践現場における子育て支援のあり方、観察記録やカンファレンスの活用、保育環境や表現の問題、海外の保育との比較や保育の歴史など、各自のテーマについて検討を行い、研究を進めていきます。人数が多い場合は、研究テーマによって少人数のグループに分かれ、複数の担当教員とともに考察を深めていきます。隔週木曜日の開講を基本としますが、受講生の予定によって柔軟に日程を組んでおり、個別指導を行うこともあります。学期末に、学習・研究結果をまとめて発表しますが、希望者には日本保育学会などでの発表もサポートします。

■比較保育実践研究Ⅲ（集中講義：10月26日（土）～28日（月））

翁　麗芳（國立台北教育大學幼兒與家庭教育學系　教授）

異郷に出てから、自国のことがより見えるようになった経験はありますか。私は、日本に留学してから台湾の幼児教育のルーツを探り始めました。歴史を通して台湾の幼児教育に携わりながら、台湾と日本の接点または衝突点を探っています。授業では、台湾における幼児教育の形成と発展、幼児教育制度の変遷について紹介するとともに、台湾社会における子ども像、多民族台湾における子育ての現状を紹介し、台湾と日本の比較を通して、子ども観を裏付ける社会文化、グローバル社会における子育てや幼児教育のあり方について考えていきます。日本の幼児教育者も、台湾を通して日本の幼児教育がより見えてくるのではないだろうかと期待しています。

■子ども家庭支援相談Ⅱ（集中講義：2月1日（土）～2日（日））

安治　陽子（お茶の水女子大学人間発達教育研究センター　講師）

子どもや家族と日常的なかかわりをもち、地域に根ざした保育の現場は、その親子や地域社会について、量・質ともに豊かな情報を持っています。だからこそ保育者は、親子の支援を展開する際のキーパーソンになりえます。親子の困難や課題の理解および支援について、心理臨床の理論と技法を紹介しながら、保育の現場に即して実践的に考えます。効果的な支援を実現するために不可欠な園内連携や保育者自身のメンタルヘルスの維持・向上、中長期的な視野に立った機関連携や地域資源の活用などにも触れ、保育の専門性を生かした親子・家族支援の展開を具体的に考えます。